

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



**百三十六と十五の命が、
今ここに有ることに感謝！**

「蝉が羽化しそうになっただけで、片足が引っかかって出れないんよ！」

降園時、名残惜しそうにテラスを後にする年長さん。見に行くと、クマゼミらしき蝉が立派な上半身を晒して網戸に殻ごとくっ付いていた。時々ゆっくりと抜け出した右足を動かすが、うまく網戸を掴めず尖った爪は空を切るばかり。しばらく見守るが、急な進展は無さそうだと判断してその場を離れることにした。どんな生き物も、簡単に生を得るのではないことを、蝉の姿に実感する。

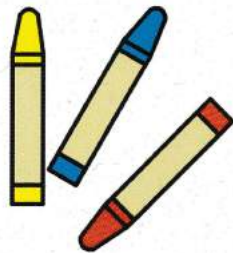
それにしても、今年の夏は、多くの尊い命がいとも簡単に奪われてしまったことか・・・。自然が相手とはいえ、ある日突然、愛おしい人が居なくなる現実を、もしそれが自分だったらと考えた時、到底受け入れられることはできないであろうと思う。今、園児百三十六名、職員十五名の命がここに揃って有ることに、心から感謝したい。

夏休みの間、この命をご家庭にお返しするに当たっては、くれぐれも子どもたち、そして御家族皆様が、どうか健康で安全に過ごされますよう、心から祈念申し上げます。宜しくお願いたします。



お話ししながら絵を描こう！

プールに入れない(体調が万全ではない)年中さんと年少さんの子どもたちを園長室で預かることができました。目の前で自由に絵を描く姿が見られるなんて！私はワクワクしました。



Aくんは、以前保育室の自由な時間に絵を描いていましたが、幾何学的な形をいくつか描いて、不安そうに周囲を気にするような表情が気になっていました。ところが、久しぶりのAくんは別人でした。右上の作品が園長室でのAくんの作品です。黄緑の回りは伸びやかな描線が囲んでいます。「かき氷できた！」「何味？」「メロン味！」「スプーンがあったら食べたいな！」するとAくんは、小さな小さなスプーンを描いて指さしながら「描いたよ！」と見せてくれました。私は、思いっきり冷たそうな顔をして「冷たい！」と言いました。回りの黒い線は、白では表せない氷のシャリシャリ感が出ています。

夏休みは、是非、子どものそばに、紙とクレパスを用意してください。絵を描くことはとても楽しく、心が豊かに耕される「遊び」です。そして、絵を通して会話することがその効果を倍増させます。暑い日の 室内遊びの強い味方「お絵かき」をお勧めします！！

大分県の幼児教育界のために

附属幼稚園の存在意義が問われているという話は、これまでも、幾度となくしてまいりました。今、本園が問われているのは、国の投資を受けている以上、公共の利益に叶っているかということ。今回、新聞で取り上げて頂いたのは、それが認められたからです。

附属幼稚園のストロングポイントは、幼児教育の国の施策に則った研究を重ねていること。教育実習の受け入れ実績があり、そのノウハウが蓄積されていることなどがあります。

今回の実績を元に、さらに附属幼稚園の価値を高め、しっかりと目の前の子どもたちを育て、その姿で証明していきたいと思っております。これからも保護者の皆様には、強力なサポートをお願い致します！（大分合同新聞7月18日夕刊）

